

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 1 月 20 日作成)

小委員会名	ヒューマンファクターによる環境設計法小委員会	主 査 名：横山 計三 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：赤司 泰義
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンファクターを考慮した環境構築法として設計ガイドなど具体的な資料を整備していく。 ・初年度：研究事例、実施事例の調査、現状の把握および問題点の分析など ・2 年度：環境構築についての設計手法の素案を作成する。 ・3 年度：環境構築についての設計ガイドを作成し、成果発表としてシンポジウムを開催する 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 横山計三 (工学院大学)、三浦克弘 (鹿島建設)、野部達夫 (工学院大学)、秋元孝之 (芝浦工業大学)、田辺新一 (早稲田大学)、大黒雅之 (大成建設)、佐々木真人 (日本設計)、大宮由紀夫 (竹中工務店)、近本智行 (立命館大学)、村上宏次 (清水建設)、小林弘造 (日建設計)、島 潔 (大林組)、橋本哲 (ダイキン工業)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2015 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 現状把握、問題分析としてシンポジウムでの意見、成果の整理を行った。 2. 研究事例、実施事例の調査として、情報提供、見学会等を行った。 本年度の目的は達成している。
委員会活動の問題点 ・課題	

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>当小委員会では、初年度として以下のような点について議論、情報提供が行われている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動方針に関する意見 2. 事例・資料収集 <p>■討議概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ヒューマンファクターシンポジウムでの意見、討議の振り返りを行った。 ②ヒューマンファクターの定義と事例を集めた資料を作成したい。 ③具体的な収集方法の検討を行う。情報収集シートの作成 <p>■情報提供</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ヒューマンファクターと自動制御に関する資料 ②吹き出し気流に関する研究事例：空気砲を用いた渦輪連続送出特性に関する研究 ③ヒューマンファクターに関する研究の雑誌への投稿 建築設備士ヒューマンファクター特集原稿 「ヒューマンファクターデザインと空調システム」 「ヒューマンファクターと自己効力感」 「クーリングルームとヒューマンファクター」 ④パーソナル空調における室内環境基準の適合評価方法について ⑤空調方式と満足度の関係に関する資料 ⑥知的生産性に関するアンケート調査シートについて <p>■見学会</p> <ol style="list-style-type: none"> ①NTT ファシリティーズ 新大橋ビル

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。